

癌腫について正しい知識！

D7班

1. 序論

今日、がんは日本で死因第一位の病気であり、約2人に1人が発病している。

がんの腫瘍＝悪いものというイメージが多くの人にもたれているが、腫瘍は100%悪いものなのだろうか？

そこで、私たちはがんについて詳しく調べ、そのうえでがん治療について考えてみることにした。

がんへのイメージ



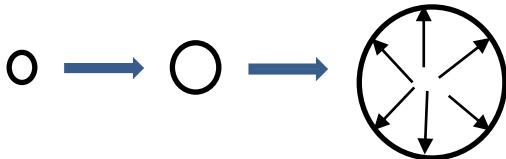
2. 癌腫について

○ 良性腫瘍と悪性腫瘍

・ 良性腫瘍…膨潤性増殖

組織	良性腫瘍
上皮性	乳頭腫
非上皮性	脂肪腫など

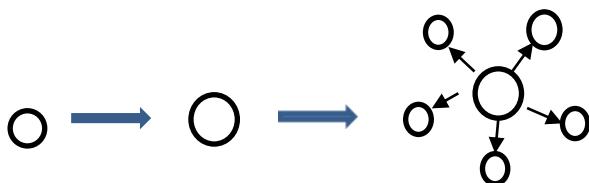
細胞分裂→塊として容積増大→周りの組織を押しつけて進展



・ 悪性腫瘍…浸潤性増殖

組織	悪性腫瘍の例
上皮性	肺がん、食道がん、子宮頸がん、胃がん、乳がんなど
非上皮性	白血病、脂肪肉腫、悪性リンパ腫など

細胞増殖→ばらける→周囲の組織に潜り込んで進展



5. まとめ

癌腫について、一般的な知識だけでなく、細かな情報を発見することができた。病気のことだけでなく、治療法はどのような種類があるのか、また薬剤の種類など、治療に関する情報もまとめることができた。現在も、新しい治療法が出てきているので、興味関心を持ち、癌腫に関する知識を身に付けていこうと思えた。

4. 結果・考察

○腫瘍とは

腫瘍とは良性腫瘍と悪性腫瘍があり、同じ腫瘍でも、これらは細胞の繁殖の仕方、スピード、現れる症状、治療法なども全く異なる。

○腫瘍の種類

悪性腫瘍にも乳がんや胃がんなどの臓器の表面上にある上皮性のものと、白血病や悪性リンパ腫などの臓器ではないところにある非上皮性のものがある。

○がん治療

従来の抗がん剤治療や放射線治療だけでなく、現在はがんゲノム治療などの画期的な治療法も増えている。

○将来のがん治療

今後、現在のがん治療はさらに研究が進み、副作用もなく、腫瘍のみに効果がある薬や治療法が安価に提供されるようになるだろうと推測できる。

3. がん治療について

がん治療の例

・ 抗がん剤を使用

→激しい副作用が伴うため、課題が多い

・ がんゲノム治療

→あるがん細胞の特定の遺伝子変異を見つけ、その変異にだけ、作用する分子標的薬を投与することで、これまでの抗がん剤治療より、大きな治療効果をあげている。

・ 分子標的薬について

→分子標的薬とは、一般的な抗がん剤と違い、すべての細胞を破壊しないので副作用が少ない。

参考文献

- 国立がん研究センターがん情報サービス
- 国立がん研究センター東病院 抗がん剤Q&A